

公衆衛生医師のすゝめ



福井県丹南健康福祉センター
地域保健課長・医幹心得

奥島 華純

平成15年旭川医科大学を卒業後、北海道と福井県で小児科医として勤務。令和3年4月に福井県に入職し、4年4月から現職。元小児科専門医。福井県福井市出身、164cm、A型。

「子どもたちの笑顔を増やしたい」と勢いに任せて飛び込んだ公衆衛生の世界。3年目を終えようとしている今、ますます底知れない可能性を感じています。

はじめに

私はタバコが大嫌いです。肌が黒いせいか「目と歯だけは良さそう」とよく言われますが、脱ぎ捨てられた衣類を猫と間違えて話し掛け続けるほどの下近眼で、口を開ければ銀歯が並ぶなど、目と歯は見掛け倒しで本当にいいのは鼻です。象には負けますが、嗅細胞はかなり優秀で、とりわけタバコの臭いに関してはそれをまとった人間が半径2m以内に入ると鼻根筋が不随意に収縮します。時に人間関係を壊すきっかけとなりますがそれほど鼻が利き、タバコが嫌いなのです。

私の父親はヘビースモーカーでした。どこにいても誰といてもとにかくタバコを出てきたのでした。

かといつてすぐに発揮できる場所があるわけでもなく、引き続き漠然とスマホを眺めていた時「福井県公衆衛生医師募集」の文字が目にとまりました。短くて助かりました。公衆衛生に関しては、若い教授がメガネを掛けていたことしか思い出せませんでした。調べるうちに私の求めていた答えに向かっているような感覚を覚え、また、多くの先生方が熱い思いを持って働かれていることを知り期待に胸が膨らみました。ほとんど短所、まれに長所となる持ち前の勢いを振りかざし、令和3年4月、新しい世界に足を踏み入れたのです。

最初に配属されたのは福井保健所です。まずは業界用語を覚えること、長文を読む忍耐力を身に付けることから始めました。得意技である「テキストの術」を封印することやつと慣れてきたころには年が明け、コロナの第6波が打ち寄せてきました。まるで冬の日本海を思わせるような荒波ではありませんが、小児科時代に培った華麗な鼻咽頭拭いの技を披露したり、療養方針の決断を下したり、ようやく医師と

コを吸いまくり、家や車の中は常に真っ白け。まだまだ長生きしたいと思いはじめたのか、時代遅れを察したのか6歳を過ぎて勝手に禁煙に成功し、天然なのか過去を忘れる病気なのか、今では喫煙者を悪者扱いする始末ですが、子ども時代に与えられた悪影響は計り知れません。タバコは「百害あつて一利なし」の代名詞となっているのですから、禁煙は愛なのです。父親の悪口みたいになりましたが、今も昔も彼とは仲良くやっていますのでご安心ください。

将来の夢はドラマで決まる

私は今でこそ決断が早く、はつきりと物を申すことで親戚かいわいで

しての技量を発揮できることにどこか安心し、さらに感染源の特定やその後を推理して対策を打つ作業に、昔刑事を夢見た私は面白さを感じていました。その一方で、ただただコロナ業務に翻弄され「子どもたちの笑顔」を増やすという目的からはずいぶん道が逸れていると感じ葛藤する日々でした。がしかし、夏以降のコロナ業務は徐々に落ち着き、保健所も私も日常を取り戻してきた頃、今後の人生において欠かすことのできない出会いと経験が待っていたのです。

国立保健医療科学院の研修で 頭も心も体まで肥える

令和5年4月、国立保健医療科学院の研修生になりました。本誌「私にも言わせて!」に何度も登場し多くの元研修生が絶賛するあの研修です。先生方には公衆衛生の基礎の基礎から熱心に教えていただき、また、同期には昼夜開かれるグループワークでたくさん刺激をもらうことで、公衆衛生医師として生きるために必要な知識・度胸・人脈を得ることができました。加えて、タバコ対策をはじめ、環境保健

は有名ですが、小さい頃は優柔不断で特にテレビドラマに影響されやすい娘でした。

ある時は『プロゴルファー祈子』を目指し、ある時は『あぶない刑事』のタカ&ユウジに憧れ、小学6年生で『外科医有森冴子』に出会い、卒業文集に将来の夢は「外科医」と明記することになります。中学生になると『検事・若浦葉子』に夢中になりますが、検事になびくことがなかったのは川柳よりも長い文章はまともには読めない国語力の低さを自分が一番理解していたからでしょう。国語力を圧倒的にカバーするほどの要領の良さで医学部に入れたわけですが、優秀な鼻のせいでオペ室の臭いが嘔気を誘発するという外科医にとつて致命的な現象が繰り返し起こり、残念ながら外科は諦めることになりました。ちなみに、これらの人生を左右したドラマの視聴は、父の巨人戦観戦の後の燻し部屋で行われてい

に関わる先生方の本気な姿には大変心動かされ、何かしなければいけない、何かできるはずだと血湧き肉躍る感覚を知りました。3か月の研修で来るもの拒まずに全吸収したせいで3kg肥えましたが、その中身は一生の宝であり決して落としてはならないのだと涙ながらに自分に言い聞かせています。過去の記事にも登場している曾根院長の9か条はどうしたことか16か条に増えていましたが、その教えを胸に、子どもたちの笑顔も大人たちの笑顔もあふれ返る社会を目指し、日々精進していきたいと思っています。

おわりに

そんなこんなで、第二の医師人生を歩み始めた私が思う公衆衛生医師の魅力が5つに厳選してお伝えします。

- ①オシャレができる
白衣とスウェットの無限ループでオシャレができるのは靴下だけだった臨床医時代。今は出掛ける頻度が増えた上に勤務中も好きな服を着て仕事ができるなど毎日オシャレを楽しめます。

たことを付け加えておきます。

「子どもたちの笑顔」を求めて

オペ室に入り浸らなくて済む医師のうち小児科を選択した理由は「子どもが好き」、ただそれだけです。過酷な労働条件とイヤミな上司に嫌気が差し、早い段階で挫折しそうになりながらもこうして長い間続けてこられたのは他でもない「子どもたちの笑顔」のおかげです。しかし、令和2年「子どもたちの笑顔」を奪い去る出来事が起こります。新型コロナウイルス感染症のまん延です。学校でみんなと過ごす、大きな声で笑う、歌を歌う、給食を食べる、思いつ切り運動をする、子ども時代は本来ならば何かと密なはずです。そんな普通を過ごすことが許されない子どもたちを目の当たりにし、「子どもたちの笑顔を増やしたい」という思いは漠然としていましたが、確かなやる気がどこから湧き

とは限りません。

② 優しくなれる

時間にも心にも余裕が生まれ、優しい心を取り戻せます。

注：もともと優しい心を持つ人に限ります。

③ 夢をかなえられる

例えば、夢にまで見た「タバコ撲滅」を実現可能な目標として掲げ、公衆衛生の立場から大勢の人と協力して達成を目指すことができます。

注：夢は大きく、目標は高く設定しがちです。

④ 社会を変えられる

やる気とやり方次第で、住民の意識を改革し、より健康で安全な社会に変えていくことができます。つまりみんなの笑顔を増やすことができます。

注：自分自身の意識改革も並行して進めてまいる所存です。

⑤ 「1億2000万人の生を衛る」ことができる素晴らしい仕事です。

注：全国保健所長会より
最後まで読んでいただきありがとうございます。本稿が公衆衛生医師に少しでも興味のある先生方のハートに1冊でも爪痕を残すことができましたならこの上なく幸せです。